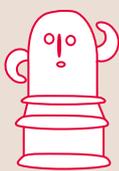




埋蔵文化財センターは、ゴールデンウィークも休まず開館するヨ!!!



水戸の時空を ひとまたぎ



第2回

こんな場所に集落跡?

集落跡は、高台の平地に多く分布しています。今も昔も、住まいを構える場所としては一等地だったようです。一方で、意外な場所で見つかった集落跡もあります。今回は、変わった立地の集落跡を紹介します。問合せ／埋蔵文化財センター

(☎269・5090)



▲柳河町遺跡の砂に埋もれた住居跡(柳河町)
▲金洗沢遺跡から出土した土偶(全隈町・常陸考古学研究所提供)

全隈町の丘陵地にある金洗沢遺跡。起伏に富んだ土地ですが、このようなところからも縄文時代の集落跡が見つかりました。近くに湧き水もあり、木の実などの採集や、狩猟するのに適した立地だったためと考えられます。また、市内では最多となる97点もの土偶が出土した点も注目されます。一般的に、1か所の遺跡から出土する土偶の数は1〜2点で、頭部や胴体のみのものが多いなか、完全な形での土偶も多く出土しました。土偶は祈りの対象であったことから、祭祀の場、あるいは祈禱師の住まいだったと推測できます。

また、那珂川に近く田園地帯に囲まれた柳河町遺跡は、低地にあるため地下水位が高く、地面を掘れば水が湧くこともしばしば。当時から洪水が起きやすかったと推測できますが、弥生時代から奈良・平安時代にかけて集落が存在したことがわかりました。これは、稲作を行いやすい立地だったためだと考えられます。柳河町遺跡で発見された竪穴式住居跡では、洪水によるものと思われる砂が床の上に堆積しているものも見つかりました。このことから、当時の人々が、大規模な洪水により、住まいを追われたことが想像できます。

技術が発達していなかった時代でも、私たちの先祖はいろいろな場所に住まいを構えています。遺跡の発掘調査では、さまざまな環境に適応しながら懸命に生きて、彼らのたくましさ垣間見ることができるのです。

埋蔵文化財センター 廣松混一

ダイダラボウのひとりごと ～遺跡探しは目を皿にして!?～

現在、市内では523か所の遺跡が見つかっているよ。遺跡探しの基本は、目と足を鍛えることかな!

残っている絵図などを参考にしたり、古墳や城のお堀など、見えている遺構を探したりする方法もあるよ。でも、主に行うのは、地面をよく観察しながら、地上をくまなく歩いて、石器や土器のかけらといった遺物を探す方法なんだ。

実は埋蔵文化財と言っても、埋まっているものばかりではないんだよ。耕作に

遺跡を探す調査員(木葉下町)



よって土がかき回されたり、木の根や霜柱に押し上げられたりすると、地上に出てくることがあるんだ。みんなの家の周りもよく見ると、昔の人が使っていた土器の破片が落ちていたりするかもしれないよ。



今月のダイダラボウHは、弓道が得意らしい。遺跡の探し方を教えてくれるよ。

令和3年5月1日号
第1501号

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-5-1
ホームページ / <https://www.city.mito.lg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107
☎029・224・5188 kounou@city.mito.lg.jp